

令和 8 年 1 月 2 6 日

保護者の皆様へ

新居浜市立泉川中学校
校長 菅 道 正

令和 7 年度 学校評価アンケート結果及び分析のお知らせ

厳寒の候、保護者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。昨年末は、ご多用のところアンケートへのご協力ありがとうございました。教職員、保護者ならびに生徒のアンケート結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。生徒たちが充実した学校生活を送る一方で、家庭学習やマナーの向上など、学校と家庭が連携して取り組みたいポイントも見えてまいりました。

この結果を教職員一同で共有し、より良い学校づくりのための指針としてまいります。なお、学校ホームページにカラー版をアップしておりますので、そちらもご覧ください。

1 アンケートについて

	教職員	保護者	生徒
回答者数	21人	132人	254人
実施期間	令和 7 年 12 月 15 日 (月) ~ 24 日 (水)		
実施方法	Google フォーム		

2 アンケート結果

評価項目は教師用のものに、生徒及び保護者用の項目を当てはめています。

なお、評価の上段の数字は【4=そう思う、3=ややそう思う、2=あまりそう思わない、1=そう思わない】の平均、下段は昨年度からのポイントの増減を示しています。

【3.5 以上 2.5 以下、昨年度比 0.2 以上増 0.2 以上減】

No.	評価項目	評価		
		教職員	保護者	生徒
1	生徒は充実した学校生活を送れている。	3.3 -0.1	3.4 ±0	3.5 ±0
2	生徒は目標を持って学校生活を送っている。	2.9 -0.1	3.1 ±0	3.2 -0.1
3	学校は、保護者、地域の願いに沿った学校づくりを進めている。	3.4 -0.3	3.3 ±0	
4	学校からの情報（連絡文書等）は適切に提供されている。	3.4 -0.2	3.2 ±0	3.2 ±0
5	学校は、分かりやすい授業づくりに努めている。	3.7 +0.3	3.1 +0.1	3.3 +0.1
6	地域の環境や人材が、教育活動に生かされている。	3.6 -0.2	3.2 ±0	3.2 ±0
7	生徒の学力は向上している。	2.7 +0.2	2.6 +0.1	2.9 +0.1
8	生徒は、計画的に家庭学習ができる工夫をしている。	2.6 -0.1	2.5 +0.1	2.6 -0.2
9	生徒のあいさつはよくできている。	2.5 -0.6	3.1 -0.1	3.4 -0.1
10	生徒は、社会・家族のルールや学校の決まりが守れている。	2.7 -0.4	3.3 ±0	3.5 -0.1
11	生徒の学校での様子を保護者に伝えたり、積極的に生徒や保護者の相談に応じたりしている。	3.5 ±0	3.2 +0.1	3.2 ±0
12	学校は、いじめのない楽しい学校づくり・学級づくりに努めている。	3.7 +0.1	3.0 ±0	3.2 -0.2

13	どの教職員も、同じ方針で生徒指導ができています。	3.1 ±0	3.1 +0.1	3.6 +0.2
14	生徒一人一人の良さを認め、伸ばそうと努めている。	3.8 +0.2	3.2 ±0	3.3 +0.1
15	学校は校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	3.3 +0.2	3.3 ±0	2.9 ±0
16	学校行事や生徒会活動は、充実している。	3.6 +0.2	3.3 ±0	3.5 ±0
17	部活動は、充実した活動になっている。	3.4 ±0	3.2 ±0	3.4 ±0
18	生徒は地域の一員として地域のボランティア等に進んで参加している。	3.5 ±0	2.6 +0.2	2.6 +0.2
19	学校は、人の生き方や将来の夢・希望について考えを深める教育活動を行っている。	3.3 +0.1	2.9 ±0	3.1 ±0
20	生徒は、思いやりの心を持って仲間を大切にすることができている。	3.0 -0.3	3.4 ±0	3.7 -0.1
21	学校と地域が協働して行っている教育活動は、子ども・学校・地域にとって有益である。	3.8 +0.1	3.4 ±0	3.4 ±0
22	学校は電子黒板やタブレット端末等の利用に積極的に取り組んでいる。	3.6 +0.3	3.3 ±0	3.7 +0.1

3 アンケートの分析について

(1) 成果

○ ICT活用の推進

教職員、生徒は「電子黒板やタブレット端末等の利用」について高い評価で、昨年度からもポイントが増加しており、教育環境のデジタル化が着実に進展している。

○ 授業改善と学力向上

分かりやすい授業づくり」が全対象で向上し、それに伴い「学力向上」の評価も全対象で前年度を上回るなど、授業改善の成果が表れている。

○ 生徒一人一人の尊重と指導体制

教職員の「生徒の良さを認める姿勢（3.8）」や保護者による「生徒指導方針の一貫性（3.6）」への評価が高く、組織的な指導体制が構築されている。

○ 地域連携の有益性

「地域との協働活動」に対する教職員評価（3.8）が極めて高く、地域連携が教育活動の強固な柱として機能している。

(2) 課題

○ 基本的生活習慣と規範意識の低下

教職員の「生徒のあいさつ（2.5）」が前年度比-0.6ポイントと大幅に下落した。また、教職員の「ルールの遵守」も同-0.4ポイントとなり、指導の再徹底が必要である。

○ 家庭学習の定着

「計画的な家庭学習」は全対象で2.5～2.6と依然として低迷しており、家庭と連携した学習習慣の確立が課題である。

○ 目標意識の希薄化

「目標を持った学校生活」の評価が教職員・生徒ともに低く、目標設定や生徒一人一人が主体的に取り組める動機付けなどの支援が必要である。

○ いじめ防止・学級づくりへの認識差

教職員が「いじめのない学校づくり」を高く評価している一方で、生徒の評価は前年度比-0.2ポイントの3.2に低下している。今後も、いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」という前提に立ち、教職員によるこれまで以上に丁寧な見守りと、生徒の微細な変化を察知する姿勢が必要である。